

2025 年度 学校自己評価報告書

常翔学園中学校・高等学校

学校自己評価委員会

I. 学校自己評価の目的

本校の教育活動等の成果を検証し、必要な支援・改善を行うことにより、生徒がより良い教育活動等を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指し、教育水準の向上と保障を図ることが重要である。

そのため、学校の教育活動その他の学校運営の状況について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの有効性等について評価することにより、教職員が現状や課題意識を共有し、学校として組織的・継続的な改善を図る。

II. 実施方法

実施日：2026年1月14日（水）Google Forms を用いて質問配付〔資料1〕

1月21日（水）入力締切

調査対象：本校教職員全員（非常勤講師、助手、臨時要員は除く）

評価項目：1. 学校運営に関すること 2. 教務・教科指導に関すること 3. イノベーション教育に関すること 4. 生徒支援に関すること 5. 進路支援に関すること
6. 保健室に関すること 7. 募集活動に関することの7分類について、それぞれに評価の観点項目を設けて評価を行った。〔資料1参照〕

なお、評価結果を検討するにあたり参考データとして「職域」「本学園の勤務年数」の調査（基礎調査）も行った。

評価方法：1.よくあてはまる 2.ややあてはまる …… プラス評価
3.あまりあてはまらない 4.まったくあてはまらない …… マイナス評価
の4段階で行った。

集計結果については、人数と割合で示している。さらに割合は

1.よくあてはまる（1点） 2.ややあてはまる（0.5点）
3.あまりあてはまらない（-0.5点） 4.まったくあてはまらない（-1点）

とし、それぞれ割合に上記点数を掛けたものの総和を「加重」欄にグラフ化し、+100～-100の範囲で点数化して示した。

* 部署ごとにPDCAを実施していることから、報告書では部署ごとに出た意見を集約している。また各項目の評価・分析等も該当する部署が検討し、記入した。

III. 「将来像」と2025年度の「重点目標」

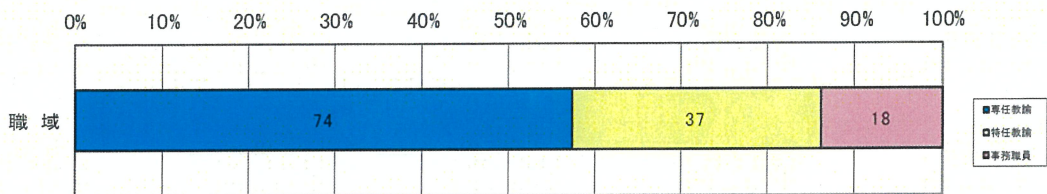
将来像	人々が幸福で平和に生きることができる世の中を創るため、生徒中心の教育を重視し、グローバルシチズンシップを身につけた自律的学習者を育成する教育推進校となる。
今年度の重点目標	① 自律的学習者育成に向けた授業改善とIRの実施運用、生徒の主体性を育み、学習者中心となる授業の改善 ② 学園内連携を更に発展させ、目的ある進学を実現する進路支援へ ③ 海外修学旅行の目的明確化と語学研修・姉妹校交流等の充実

Ⅳ. 基礎調査（職域、本学園の勤務年数）

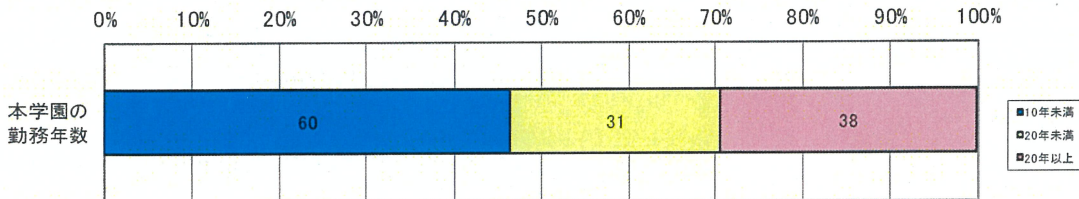
※割合（％）については、四捨五入のため、その合計値が100にならないことがあります。

調査1（基礎調査）

職 域		人数	割合（％）
職 域	1. 専任教諭	74	57.4%
	2. 特任教諭	37	28.7%
	3. 事務職員	18	14.0%
	合 計	129	100.0%



本学園の勤務年数		人数	割合（％）
本学園の勤務年数	1. 10年未満	60	46.5%
	2. 20年未満	31	24.0%
	3. 20年以上	38	29.5%
	合 計	129	100.0%



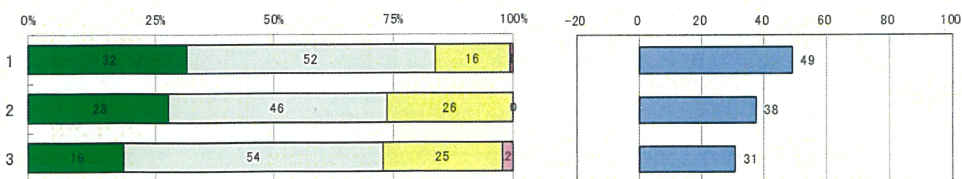
Ⅴ. 自己評価報告

1. 学校運営に関すること①

学校運営に関すること①

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	41	67	20	1	32	52	16	1	49	51	55	55
中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	36	59	34	0	28	46	26	0	38	39	45	45
学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	24	70	32	3	19	54	25	2	31	26	40	40



【評価と次年度の目標について】

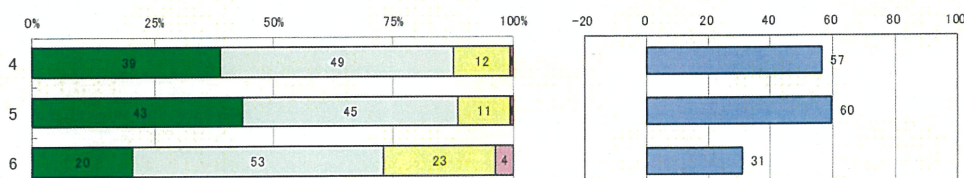
ここでは、すべての項目において、低い評価になっている。「**建学の精神・愛校心**」については、新入生オリエンテーションで自校史教育を実施することになっているが昨年度（2024年度）より生徒主体の行事に変更したため、ほとんど触れられなかった。常翔歴史館を見学する機会を設けるなど、更なる施策を検討する必要がある。高校校友会主催で実施する「はたちの集い」や「卒業5年目、10年目の合同クラス同窓会」などは認知されてきたが、参加者が一貫コース卒業生に偏っているため、高校から入学した生徒の参加者が増えるように、担任教員の協力を求めたい。

「**中学校・高校の経営**」「**学園の各組織**」については低い評価のまま伸び悩んでいる項目である。近年、職員会議をはじめとした各種会議の時間が短縮化されており、学園組織については、時間を取って説明する機会がなくなっている。進路支援部の研修で、教員対象の学園内大学進学説明会を実施しているが、3年担任や新任教員以外は参加者が少なくなっている。働き方改革の中で、若手や中堅教員の学校経営に関する興味、関心が高まっていないように思われる。前年度も指摘したが、経営者感覚を持って主体的に動く中間管理職の養成は急務であるとともに、全教職員が当事者意識を持って業務に取り組む雰囲気作りも大切である。

学校運営に関すること②

学校運営に関すること②

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	50	63	15	1	39	49	12	1	57	46	55	60
学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	56	58	14	1	43	45	11	1	60	61	65	65
会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	26	68	30	5	20	53	23	4	31	22	40	40



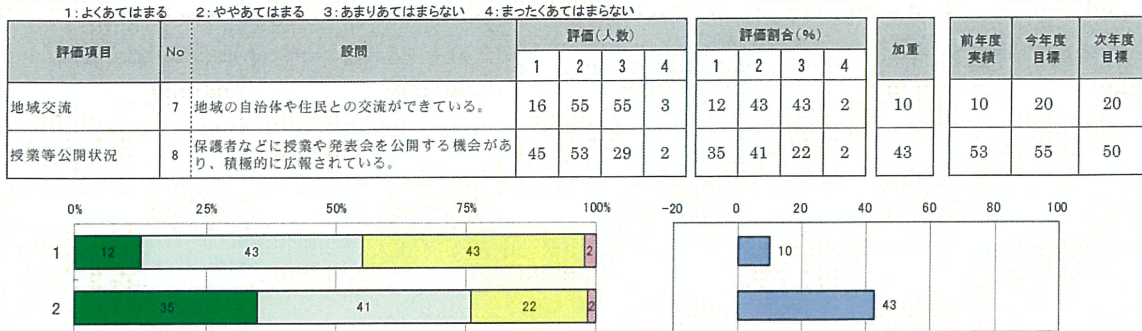
【評価と次年度の目標について】

「**学校間連携**」については、目標には到達していないものの、評価が比較的高くなっている。これも2022年度から実施している常翔啓光中高との合同研修会や高校の合同発表会、中学の百人一首交流戦、更に昨年度より、高校3年生を対象に合同大学ガイダンスを実施するなど、教職員間、生徒間で交流を持つ機会が増えたことが要因だと考えられる。学校間連携推進委員会ともうまく協力し、次年度以降、更なる充実を図りたい。「**教職員の連携**」については、目標を上回ることができた。これも働き方改革を進めていくに当たり、一人で抱え込むことなく、協力し合おうという雰囲気が生まれてきていることによるものと考えられる。前年度も指摘したが、男性教職員の育児休暇についても、取得を推奨していく中で、いかに教員間でのサポートができるかが重要となる。「**会議の有効性**」については、会議資料の事前配付が定着化していることもあり、それほど高くはないものの、前年度に比べて向上した。ただ、資料は増加傾向になり、消化不良を起こしているように感じられる。チェック機能を高めるには教職員が当事者意識をもって会議に臨む必要がある。会議のあり方について、「**教員の働き方改革**」とともにさらに良いものに

ていきたい。

学校運営に関すること③

学校運営に関すること③



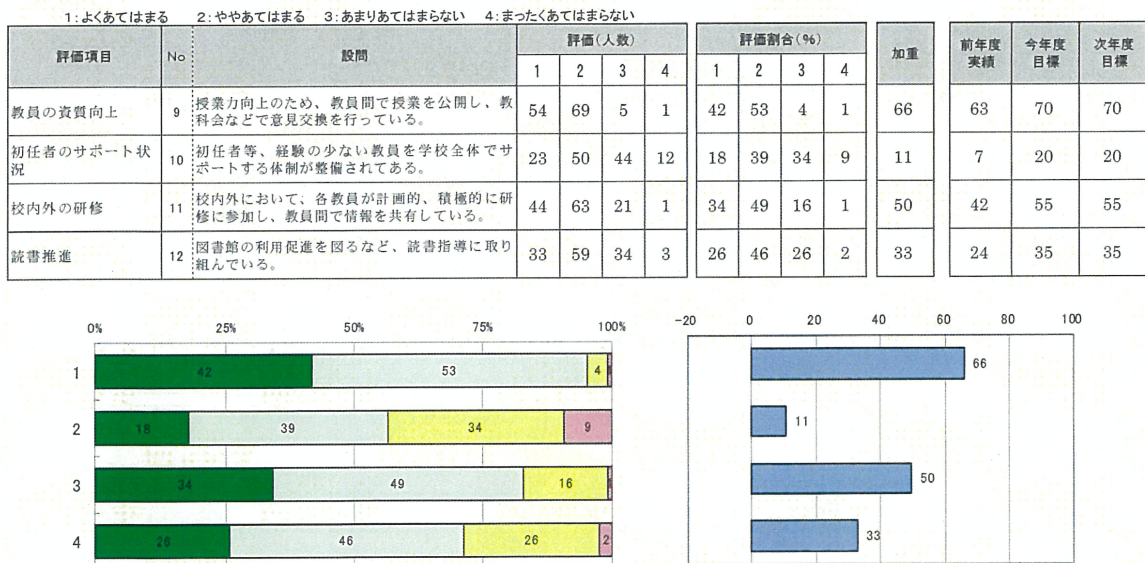
【評価と次年度の目標について】

「**地域交流**」については、例年、評価が低い項目である。一昨年度から、受験予定者に加え、卒業生や地域住民の文化祭への招待を復活させているが、その告知をしっかりと発信したい。また、生徒による地域清掃活動や淀川マラソンなど地域行事へのボランティア活動を通じて、地域交流を増やすようにしたい。

「**授業等公開状況**」は、残念ながら評価は低下しているが、外部からの視察を積極的に受け入れている。昨年度より、中学においては、合同保護者会の日を利用して、学年別に公開授業（授業参観）を実施するようになった。

学校運営に関すること④

学校運営に関すること④



【評価と次年度の目標について】

2022 年より教員免許更新制が廃止されたことに伴い、教育イノベーションセンターや教務部等による校内研修を充実するようにしている。特に今年度はDXハイスクール（高等学校DX加速化推進事業）の予算を使い、教員対象のAI研修を全5回行った。学園人事課や渉外室等から提供される e-learning 動画研修教材等についても未受講者に対して受講を促すなど、積極的に活用している。また、2023 年度より教員に研修履歴を記録することを義務づけている。この成

果もあり、「教員の資質向上」のポイントについては、3ポイント上昇しており、この数年比較の高い評価を維持している。

「**初任者のサポート状況**」は、若干の改善は見られるものの、依然として低迷している項目である。学級担任や部活動といった職務については、中堅・ベテラン教員の中にも負担を感じている者が多く、その結果、若手教員への十分なサポートが行き届いていない場面が見受けられる。働き方改革の一環として教員の負担軽減を目指しているものの、部活動指導や生徒募集業務、保護者対応などは学校の満足度や経営に直結する業務であり、教員間でどの程度負担を分かち合えるかが重要な課題となっている。2023年度から部活動担当を希望制としたが、生徒への影響を考慮し、引き続き部活動を継続して担当する中堅・ベテラン教員が多いのが現状である。初任者支援の充実、学校経営に直結する喫緊の課題である。

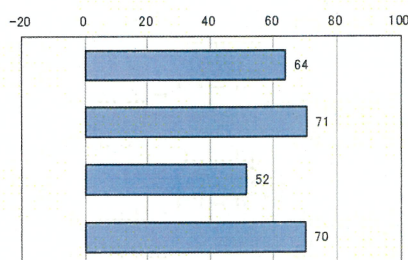
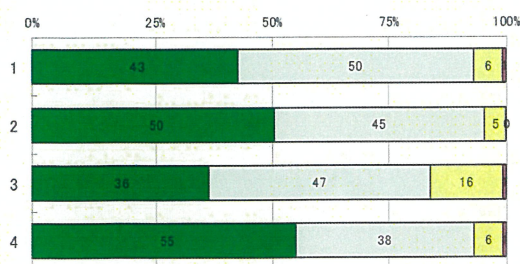
「**校内外の研修**」は他校への視察を含め、校外での研修にも積極的に参加する教員が増えている。しかし、研修履歴に必要な最低限の研修を受講することにとどまっている教員もまだ多い。本校が教育先進校として、「学習する組織」を目指していることから、研修文化を根付かせることは最も注力すべき項目である。

「**読書推進**」については評価が向上した。高校での図書委員によるビブリオバトルに加え、中学校で「ビブリオバトル」の大会を実施するなど、国語科を中心に積極的な取り組みを行っている。現在、中学生に対してのみ図書館利用ガイダンスを実施しているが、総合的な探究の時間やLHRの時間を使って、高校生の図書室利用を推進したい。というのも大学入試において、国語や英語を中心に読解力が求められる問題が増えているため、図書館と国語科を中心に各教科が連携し読書活動をする習慣をつけさせたい。

2. 教務、教科指導に関すること

教務、教科指導に関すること

1:よくあてはまる		2:ややあてはまる		3:あまりあてはまらない		4:まったくあてはまらない		1				加重	前年度 実績	今年度 目標	次年度 目標
評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)								
			1	2	3	4	1	2	3	4					
学習指導要領の対応 状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	55	65	8	1	43	50	6	1	64	62	70	70	
学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	65	58	6	0	50	45	5	0	71	72	75	75	
人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	47	61	20	1	36	47	16	1	52	53	55	55	
スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	71	49	8	1	55	38	6	1	70	67	75	75	



【評価と次年度の目標について】

「**学習指導要領の対応状況**」については、2ポイント増であった。新学習指導要領下において三観点評価が実施され、各教科において新しい授業作り（アクティブラーニング等）の取り組みを継続して行っている結果である。シラバス内容の改善も進み、奏功した感がある。今後も、学校・教科ループリックを活用して生徒の現状を把握するとともに、外部から講師を招くだけでなく自校教員による教科内の研修を行い、次年度に向けてさらなる授業の充実を期す。

「学習指導」については、1ポイント減であったが、現状維持と捉えたい。学級閉鎖時におけるオンライン授業の体制も十分であり、不登校生徒や病気療養生徒に対する対応ルールも整った。日々の学習におけるスモールステップを大切にしつつ、アクティブラーニング等の授業も行われているが、新学習指導要領下における、主体性を涵養する教育に課題があるとの見方もある。今後、検討と改善を進めたい。

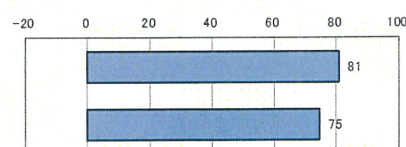
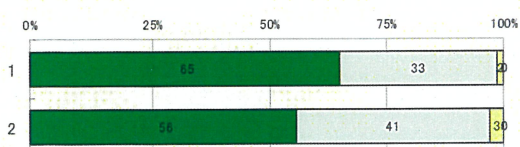
「人権教育」については、前々年度から8ポイント増えて前年度は53ポイントとなり、今年度は52ポイントである。1ポイント減であったが、現状維持と捉えたい。教務部においてこれまでの本校における人権教育を根本的に見直し、再体系化を開始した結果である。これまで孤立していた人権教育を本校教育の中に位置づけ、各教科との連携を図り、人権教育委員会を中心にその内容を整理、従来からの形式は残しつつ、新しい時代に対応していくために順次作業を進めている。特に、中学校においては、道徳の授業の中で人権教育を実践している。

「スポーツ・芸術文化」については、前年度から3ポイント増の70ポイントであった。コロナ禍も終わり、体育祭、文化祭も勢いを取り戻しつつある。芸能鑑賞や球技大会も行い、学校行事のラインナップは十分だと考えている。中学校においてはより文化的要素を高めた文化祭を志向することに加え、百人一首大会も盛況であった。行事の事前・事後にループリック調査を励行、本校教育の目的・目標を常に意識したものにしている。

3. イノベーション教育に関すること

イノベーション教育に関すること

評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	84	43	2	0	65	33	2	0	81	79	85	85
国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	72	53	4	0	56	41	3	0	75	79	75	80



【評価と次年度の目標について】

「新しい教育への取り組み」のポイントは前年度を2ポイント上回った。本校の教育活動全般にICT教育が十分に浸透しているおかげで、各教員のオンライン授業のスキルもそれぞれさらに向上し、iPadの利用やデジタル教材の活用が多くなっている。いつオンライン授業になっても対応できる体制になっていることはアフターコロナの大いなる成果である。対面授業・オンライン授業の両方に対応できる教員が年々多くなっている。

また、座学中心であった授業形態から、アクティブラーニング形式の授業やグループ学習、ペアワークなど様々な形式の授業も増えつつあり、それにより主体的に学ぶ自律的学習者もかなり増えてきた。キャリア教育についても、各教員が熱心に取り組みを行い、新しい教材も開発し、生徒への指導スキルも年々向上している。

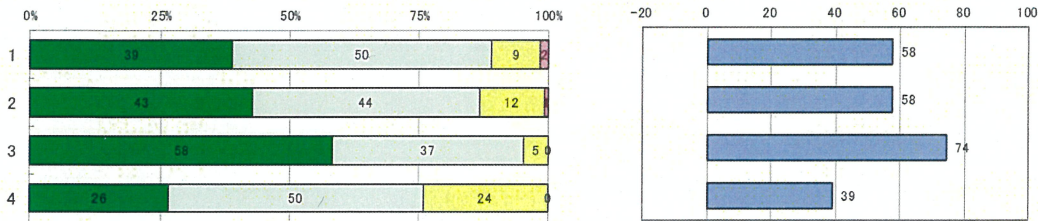
「国際理解・交流」については、前年度よりも4ポイント下回ったが目標値は達成した。2023年度から海外研修（オーストラリア語学研修、セブ島英語研修プログラム）が復活し、海外（2025年度は韓国、ニュージーランド、インド、アメリカ、香港）から本校を訪問・交流する学校が増えた。ターム留学も毎年数名の生徒が参加しており（2025年度はオーストラリア3名、ニュージーラン

ド6名)、留学生や海外から来校する生徒を、ホストファミリーとして一定期間受け入れる家庭も増えてきた。2025年度からGlobal Leaders Camp(高2)は、スーパーコース、グローバル探究コース、薬学看護医療系コースが7月の特別講習期間の授業内で実施している。また、海外修学旅行での現地校への訪問や文理コース2年のHeart Globalなど、生徒たちが交流を持つ機会が増えている。高1の希望者対象で実施するBasic English Campへの参加を促し、さらに国際交流全般に力を入れていきたい。

4. 生徒支援に関すること①

生徒支援に関すること①

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない														
評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒支援を行っている。	50	65	12	2	39	50	9	2	58	48	55	60
生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	55	57	16	1	43	44	12	1	58	53	60	60
学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	75	48	6	0	58	37	5	0	74	74	75	75
ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	34	64	31	0	26	50	24	0	39	43	45	45



【評価と次年度の目標について】

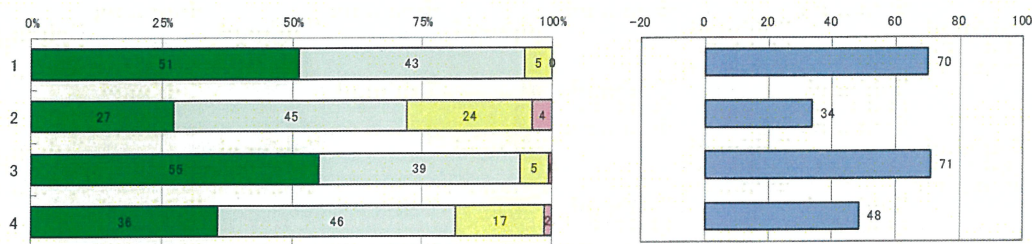
「指導方針の一貫性」は昨年度より多少上向き、目標は達成できたものの、一貫性があると理解されているとは言い難い状況である。指導方針を周知し、理解を深めたい。

「生徒会活動」について、様々な活動を行ってきたが、僅かではあるが、目標達成には至らなかった。教職員に周知できていない部分を踏まえ、次年度に向けて、よりよい周知方法を見出していきたい。「学校行事」については前年度の実績と同じであった。生徒主体の体育祭や文化祭をはじめとした様々な活動を活発にしていくための工夫を凝らし、これからのポイントの向上につなげたい。「ボランティア」については、校内での活動は多くの行事において行っているが、前年度より4ポイントの減である。今後の活動を継続的に校外でも実施できるよう、周辺地域などに周知していきたい。中学校も含めた生徒会活動を活性化すると共に、中高一体となった活動を構築していきたい。また、活動の情報を広く発信し周知させることで、学外活動にも目を向けて学校全体の活性化を図っていきたい。

生徒支援に関すること②

生徒支援に関すること②

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない														
評価項目	No.	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	66	56	7	0	51	43	5	0	70	72	75	75
環境問題	24	生徒に清掃、校内美化を取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	35	58	31	5	27	45	24	4	34	22	40	40
部活動	25	生徒が心身共に成長するよう、積極的に部活動を推進している。	71	50	7	1	55	39	5	1	71	60	65	70
情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分に取り組んでいる。	46	59	22	2	36	46	17	2	48	47	50	50



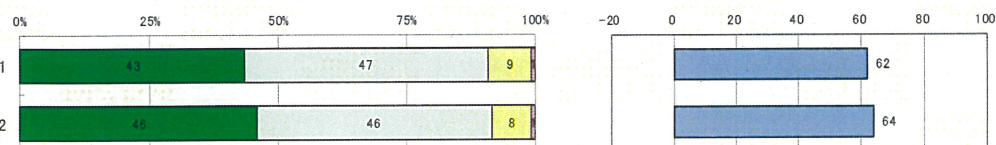
【評価と次年度の目標について】

「いじめ防止対策」について、前年度より2ポイント下降し、目標達成に至らなかった。いじめに関する取り組みや活動報告などの機会を作ること、その実態を周知していきたい。「環境問題」については12ポイント上昇したが、引き続き目標値には程遠い評価である。誰もが取り組めるような活動を推進していきたい。今後も教室でのゴミの分別収集や、エコ活動の推進に努めていく中で、目標達成を目指すとともに、生徒の意識向上を促すために、更なる対策が必要と考える。新たな活動を取り入れることも視野に入れるべきである。「部活動」については、前年度実績より11ポイント上昇し、目標値より6ポイント増加した。各コース授業終了後から部活動に参加できる幅が広がったことや施設が充実していることが高評価の要因ではないかと考える。しかし、中学校の部活動においては、週3日のみという制約のため、部活動生が満足 of いく活動ができていない側面もある。生徒が心身ともに成長していくためには、積極的な部活動への参加を推進できるように、活動日の設定の見直しが必要と捉える。「情報モラル指導」については前年度より1ポイント上昇したものの、目標値には届いていない状況である。全校生徒が情報モラルの重要性への意識を常に持てる仕組みを構築し、教員や生徒への講習会や研修といったモラル向上に繋げられる取り組みを行うなど、意識向上に努めたい。

5. 進路支援に関すること

進路支援に関すること

		1:よくあてはまる	2:ややあてはまる	3:あまりあてはまらない	4:まったくあてはまらない	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
評価項目	No	設問				1	2	3	4	1	2	3	4				
進路支援	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。				56	61	11	1	43	47	9	1	62	60	70	70
内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。				59	59	10	1	46	46	8	1	64	58	70	70



【評価と次年度の目標について】

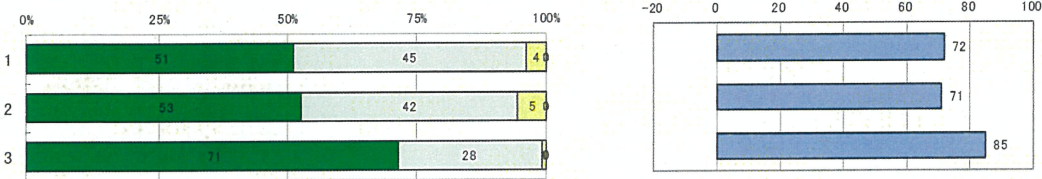
「進路支援」については、前年度より2ポイント増であった。高校1年生は、学部の学びについて知るために学園内大学説明会を実施している。この説明会は学園内大学への進学意識を醸成することも目的としている。高校2年生は学園内・外の大学から協力を得て、33分野の学び群の模擬授業を体験する機会を設けている。高校3年生は関西の私立大学を中心に説明会を実施し、個々の進路選択ができるようにするなど、それぞれの学年に応じた支援を行っている。また、海外の大学を目指す生徒を対象として海外大学進学説明会を実施し、幅広い生徒の希望に添えるよう支援を行った。総合型、学校推薦型を受験する生徒が増加したことにより、面接練習を必要とする生徒が増加した。大学の面接内容に合わせて練習を実施するなど生徒それぞれの希望に応じて対応している。次年度は新たに上位生徒対象の大学見学プログラムを予定しており、生徒それぞれの興味・関心・適性に応じた進路選択のために支援体制を整えていく。

「内部進学」については、前年度より6ポイント増であった。全教員対象に学園内大学の理解を深めるため説明会を毎年実施しており、学園内大学への関心を高める取り組みを継続している。今年度は学園内大学の全ての受験において検定料が免除されたことにより、教員の関心は昨年度よりも高くなったと感じている。生徒に対する取り組みとしては高校1年生を対象に学園内大学の説明会を実施した。高校2年生の大学体験については、学園内大学からの学部説明を受けることが多く、進学への意識を高めている。大阪工業大学、摂南大学では保護者生徒対象の説明会において大学構内のキャンパスツアーもあり、好評である。広島国際大学のオープンキャンパスツアーにも中学生を含む多くの生徒保護者が参加していて関心の高さを窺わせる。今後も学園内大学に関する行事を通して関心を高め、進学者数を増加させたい。

6. 保健室に関すること

保健室に関すること

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない														
評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標
			1	2	3	4	1	2	3	4				
健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくられるように指導している。	66	58	5	0	51	45	4	0	72	67	70	75
カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを動めている。	68	54	7	0	53	42	5	0	71	72	75	75
危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	92	36	1	0	71	28	1	0	85	80	83	85



【評価と次年度の目標について】

「健康に関する指導」のスコアは目標を2ポイント上回った。今年度は「保健だより」をより充実させたことに加え熱中症予防対策として暑さ指数を表示する看板を設置し注意喚起を行った。さらに、落雷に対する対策として雷探知機を購入し、屋外で活動する体育の授業や部活動の担当者に携帯してもらうなど、徹底した対策を行った。今後も毎月発行の「保健だより」を通じて、配付時期に合った保健指導の取り組みをより一層充実させていきたい。

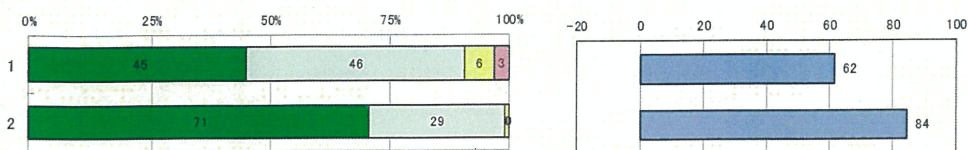
「カウンセリング体制」のスコアについては目標に4ポイント届かなかったが、今年度は昨年以上に相談室の利用を広く促すことが出来た。また、カウンセリングの必要性のある部活動において集団での相談を実施するなど、これまでにない取り組みも行った。今後は教室掲示用の「相談室だより」や、保健室での日々の生徒相談も含めカウンセリング体制のさらなる強化を図っていきたい。

「危機管理への対応」のスコアは目標を2ポイント上回った。今年度は、毎年実施している「救急救命講習会（AED講習会）」に60人以上の教職員が参加した。また、アナフィラキシーに対する知識と対応について全教職員を対象としてエピペン講習会を実施した。今後も内容を検討しながら、全教職員が集う職員会議を利用し継続的に実施しておきたい。また、年2回の部活動リーダー講習会においても、これまで通り救急救命に関する講義を継続していきたい。

7. 募集活動に関すること

募集活動に関すること

1:よくあてはまる		2:ややあてはまる		3:あまりあてはまらない		4:まったくあてはまらない													
評価項目	No	設問	評価(人数)				評価割合(%)				加重	前年度実績	今年度目標	次年度目標					
			1	2	3	4	1	2	3	4									
入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	58	59	8	4	45	46	6	3	62	65	70	70					
情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	91	37	1	0	71	29	1	0	84	83	85	85					



【評価と次年度の目標について】

「入試業務」については8ポイント足らず、目標達成には至らなかった。2026 年度中学入試では、初日の日程から加点のある特別加点制度（本校第1 志望受験生のみ）が定着し、制度を活用する受験生が増加した（昨年度から 22 名増）。特待生での合格者を増やし、スーパーJ コース合格者の手続き期間を長くした S+日程も出願者数が 31 名増加した。各日程の出願者数も全日程で昨年度を上回ることができ、最終出願者数が 60 名増（過去最高出願者数、昨年度比 106%）の 1074 名、最終倍率も 1.53 倍から 1.66 倍に上昇、第 1 希望が出願する初日午前（A 日程）の志願者数では 5 名増加（昨年度比 104%）であった。学力上位層の獲得は進学実績と連動する。今後の対策として、競合校との差別化を図りながら本校の魅力を発信し、レベルの高い受験生、入学者を獲得していきたい。

「情報公開」についてはおおむね「よくあてはまる」「ややあてはまる」との評価があり、ほぼ目標値に届いている。ホームページのお知らせを高頻度で各担当者が更新していることで、インスタグラムとともに本校の生徒活動が発信できた結果と思われる。さらに更新頻度を上げながら、ブランド力アップならびに志願者数増につなげたい。

VI. 総合評価と今後の改善方策

本校が学校改革を始め(2004 年開始)、校名変更（2008 年）を行ってから、20 年近くが経っている。その間、多くの新規事業を実行し、どの分野においても概ね発展を遂げてきた。アンケート結果についても多くの項目で、大きく進展している。しかし、年代別の資料の通り、年齢や職域によって違いがあったり、努力はしているもののなかなか改善されない項目も多い。

まず資料 3 を見ると、全体の加重平均は 55.8 で、前年度より上昇しているのに加え、この数年、比較的高水準を維持している。勤務年数別にみると、10 年未満の教員および 20 年未満の教員については、少し改善した。20 年以上の教員については、過去 5 年間はそれほど大きな変化はない。項目によっても大きな違いはあるが、例年と同じく評価は年齢に比例して高くなっている。10 年未満の教員の 50.2 に対し、20 年以上は 63.1 と 12.9 ポイントも差があり、相変わらず年齢によるおおきな乖離が見られる。また、職域別では特任教諭が低くなっている(45.8)が、前年度よりも改善している。これまで、若手教員と特任教諭の値が際立って低かったのは、教員経験が浅い中、担任や部活動といった職務を負担に感じていたのが原因であった。この 2, 3 年は、「働き方改革」で休みが増えたほか、業務が軽減され、比較的早い時間に退勤できていることが、評価全体にいい影響を与えていると考えられる。事務職員については、今年度約 7 ポイント増で昨年度落としたポイントを取り戻した。これは、前年度に比べて事務職員の異動が少なく、多くの項目で理解を深めることができたことが要因であると考ええる。専任教諭も 57.8 と少し改善した。

資料 3 を項目別に見てみると、例年特に低い項目である「初任者のサポート状況」については、前述の通り、相変わらず低いままで、改善が望まれる。「会議の有効性」についてはこれまでに述べてきている通り、全教職員が当事者意識を持って会議に参加するようにしていきたい。

「地域交流」については前年度同様低いスコアとなっている。ただ、高校の吹奏楽部が旭防火・

防災フェスタに出演したり、ラグビー部が自転車盗難防止啓発活動に参加したりと地域からの要請に積極的に応えるようにしているので、このことを周知していくようにしたい。「ボランティア」については、若干ポイントが下落した。ただ、前年度に引き続き、生徒主体でチャリティコンサートを実施した。こうした取り組みを継続していきたい。「国際理解・交流」については、前年度に引き続き、長期留学生を受け入れたことに加え、海外姉妹校研修ツアー2回目（韓国）を実施するなど、積極的に海外交流を行ったことにより、高水準を維持している。「校内外の研修」については、評価が改善した。積極的に校外研修やオンライン研修に取り組む教員が、他の教員にフィードバックする機会を持つために教科会を有効活用させたい。教育先進校を目指す学校として、働き方改革で労働時間を減らす必要がある。一方で、いかに研修の時間を確保するかが今後の課題である。

また、分類別にみると、「教務、教科指導に関すること」で「学習指導要領への対応状況」の評価が4年ぶりに改善した。大学入試が易化する中で、極端に理系、文系科目によせたカリキュラムでなく、教養を大切にするバランスの良いカリキュラムを組んでいることが、教員、保護者、生徒に浸透し始めたと考えられる。また、「生徒支援に関すること」では、「環境問題」のポイントが大きく向上した。前年度から始めたレストランでの細かいゴミの分別が少しずつ浸透し始めた結果だと考える。引き続き、教室美化の徹底を指導することや、風紀美化委員会を中心に各行事（文化祭、体育祭）で積極的に活動をしていくことを推進したい。

「進路支援に関すること」に関しては、いずれの項目もポイントが改善した。今年度から進路支援部へ名称変更し、生徒の進路実現へのサポートを担任教員とともに積極的に行っていることが評価されたと考える。また、中高大連携を強化することにより、学園内大学への進学者ならびに、理系の選択者が徐々に増えている。「募集活動に関すること」については、いずれも高い水準を維持している。中学校は毎年のように、志願者が増加しているだけでなく、入学者の学力は着実に向上している。ただ、募集イベントが多く、日曜祝日に開催される説明会や私学展をはじめとする各種イベントなどの対応で入試部教員が業務過多となっている。

次に資料4の表は、今年度と前年度の「加重ポイント」比較と「プラス評価」比較のそれぞれの改善度である。今回、「加重ポイント」で前年度より大きく伸びている項目は、「教職員の連携」「指導方針の一貫性」「環境問題」「部活動」である。「プラス評価」についても、「教職員の連携」「指導方針の一貫性」と「環境問題」の改善度が高かった。

●「将来像」と2025年度の「重点目標」について

将来像	人々が幸福で平和に生きることができる世の中を創るため、生徒中心の教育を重視し、グローバルシチズンシップを身につけた自律的学習者を育成する教育推進校となる。
今年度の重点目標	① 自律的学習者育成に向けた授業改善とIRの実施運用、生徒の主体性を育み、学習者中心となる授業の改善 ② 学園内連携を更に発展させ、目的ある進学を実現する進路支援へ ③ 海外修学旅行の目的明確化と語学研修・姉妹校交流等の充実

将来像を実現するために、今年度は上の3つの重点目標掲げた。

「生徒の主体性を重視する教育」については、教員がファシリテーターとしての役割に徹し、生徒が自ら考えて主体的に行動できるようにサポートを行った。2024年度から、卒業式や入学式、新入生オリエンテーションなど、これまで教員主導で実施してきた行事やイベントが生徒たち中心の企画、運営の行事に変わっている。

「目的ある進学を実現するための進路支援」に関しては、多くの生徒たちが学園内大学への進学を目指すように進路学習で取り組ませている。2023 年度より、高校 1 年生には、夏休みにオープンキャンパスに行くことを宿題にしているが、学園内大学のオープンキャンパスに参加する生徒が多かった。生徒や保護者だけではなく、教職員にも積極的に学園内大学の情報を得られる機会を設け、学園へのロイヤリティを高めていきたい。

「海外修学旅行の目的明確化と語学研修等の充実」に関しては、グローバルシチズンシップを身につけさせるため、観光旅行を目的としない研修としての修学旅行を実施するとともに、海外からの訪問校の積極的な受け入れを行っている。今年度から修学旅行の行き先をハワイとバリ島に変更したが、想定以上の円安のため、実施直前で行程の見直しを行わざるを得なかった。充実した修学旅行を実施するため、早めに行き先の検討を開始したい。

今年度の重点目標は 3 つ掲げているが、いずれも私学の根幹となる特色教育や学習指導に繋がるものであり、前述の評価項目全てに連動するもので、バランスの取れた評価が重点目標達成の上で重要である。

今年度の重点目標	今年度目標	今年度評価	前年度実績	達成度
学習指導要領の対応状況	70	64	62	未達成
新しい教育への取り組み	85	81	79	未達成
国際理解・交流	75	75	79	達成

今回は、残念ながら 2 つの目標が未達成であった。「学習指導要領の対応状況」については新しいコース編成に伴い、カリキュラムの修正が毎年のようにあるため、教職員の理解が不十分な部分があるのではないかと。また、(学校、教科) ルーブリックや三観点評価を利用し、各科目の評価を適正化しているが、実際の運用においては、まだまだ理解が十分でない点があったのではないと思われる。

「新しい教育への取り組み」に関しては、教員対象の AI 研修の結果もあり、高度なスキルを持つ教員が増えている。また、専門的リーダー教員を設けて、教育現場での AI 導入の検討を始めた。8 回実施した「公開研究授業」については、今年度から EduJOSHO と名称を変更し、授業を行わず、純粋な研究会として実施した。前年度に引き続き、アンカンファレンスを実施し、様々なテーマについて、本校教員と外部の参加者が意見を交換した。「国際理解・交流」については、姉妹校を中心とした来校が増え、生徒たちが海外の学生と交流する機会が多くなっている。また、円安にもかかわらず、ターム留学に行く生徒が前年度の 3 倍増となった。(オーストラリア 3 名、ニュージーランド 6 名)。今年度から始まったグローバル探究コースについても、MoG 修学旅行を初実施した。短期間の語学研修並みの研修にクラス全員で取り組んだことは、学校生活だけでなく、今後の人生に役立つ体験になったと確信している。摂南大学から講師の先生を派遣していただき、中国語の授業を行っていることが、台湾やマレーシアの大学への留学希望者が出るきっかけとなっている。

以上

将来像	人々が幸福で平和に生きることができる世の中を創るため、生徒中心の教育を重視し、グローバルシチズンシップを身につけた自律的学習者を育成する教育推進校となる。
今年度の重点目標	・自律的学習者育成に向けた授業改善と IR の実施運用、生徒の主体性を育み、学習者中心となる授業の改善 ・学園内連携を更に発展させ、目的ある進学を実現する進路支援へ ・海外修学旅行の目的明確化と語学研修・姉妹校交流等の充実

より良い学校作りのため、恐れ入りますが以下のアンケートにお答えください。

下記のそれぞれの評価項目について、1～4の評価のうちいずれか1つを教えてください。
回答は Google Forms でお答えください。

調査 1 (基礎調査)

職 域	1. 専任教諭	2. 特任教諭	3. 事務職員
本学園の勤務年数	1. 10 年未満	2. 20 年未満	3. 20 年以上

調査 2 (自己評価)

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

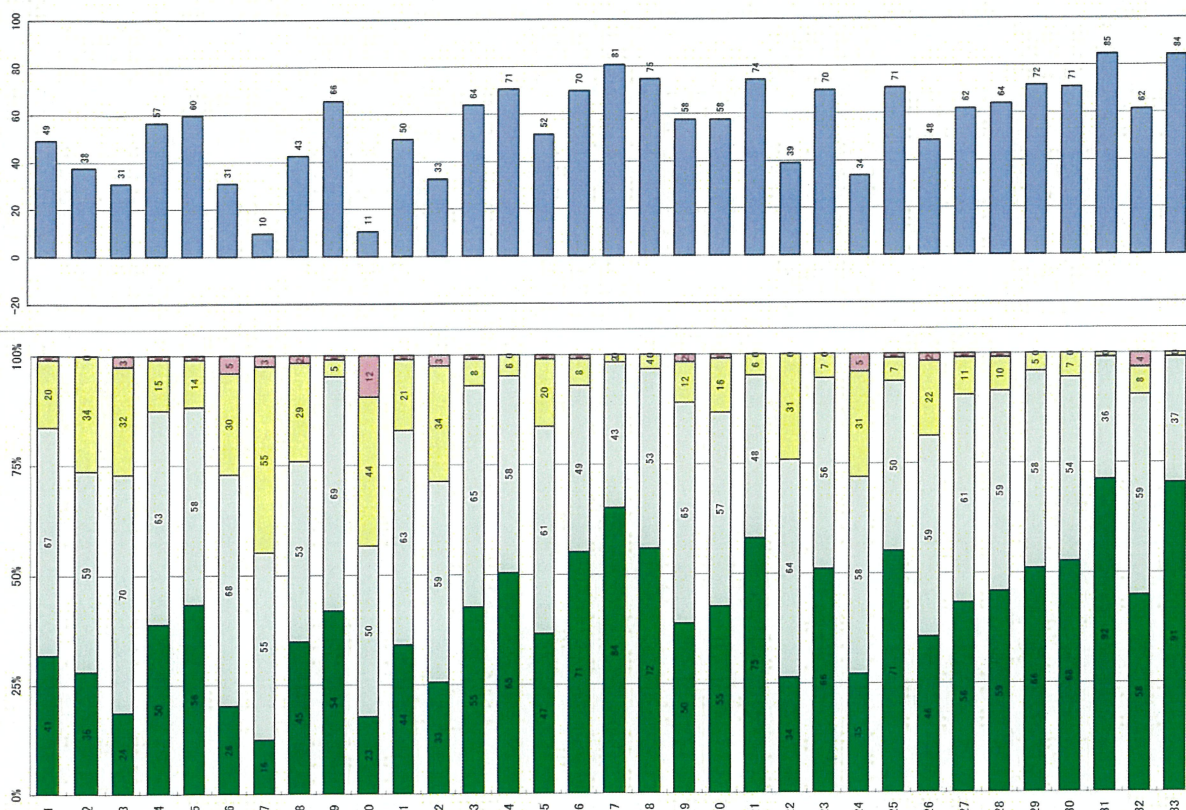
分類	評価項目	No	設問	評価 1つを選択する			
学校運営に関すること	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	1	2	3	4
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	1	2	3	4
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	1	2	3	4
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	1	2	3	4
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	1	2	3	4
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	1	2	3	4
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	1	2	3	4
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	1	2	3	4
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	1	2	3	4
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されてある。	1	2	3	4
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	1	2	3	4
	読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	1	2	3	4

教務・教科指導に 関すること	学習指導要領の対応状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	1	2	3	4
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	1	2	3	4
	人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	1	2	3	4
	スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	1	2	3	4
イノベーション教 育に関する事	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	1	2	3	4
	国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	1	2	3	4
生徒支援に関する事	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒支援を行っている。	1	2	3	4
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	1	2	3	4
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	1	2	3	4
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	1	2	3	4
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	1	2	3	4
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化に取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	1	2	3	4
	部活動	25	生徒が心身共に成長できるよう、積極的に部活動を推進している。	1	2	3	4
	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分に取り組んでいる。	1	2	3	4
進路支援に 関すること	進路支援	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	1	2	3	4
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	1	2	3	4
保健室に 関すること	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくれるように指導している。	1	2	3	4
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを勧めている。	1	2	3	4
	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	1	2	3	4
募集活動に 関すること	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	1	2	3	4
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	1	2	3	4

ご協力ありがとうございました。

アンケート回答入力期限： 1月21日（水）

資料 2



分類	原簿項目	No	期間				評価(人/点)				評価割合(%)				割合(%)						
			1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1+2	3+4	加重				
1.よあてである 2.ややあてはまる 3.おあてはまる 4.ちやうどあてはまらない	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生の卒業生は学校に誇りを持っている。				41	67	20	1	32	52	16	1	84	16	49				
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。				36	59	34	0	28	46	26	0	74	26	38				
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解されている。				24	70	32	3	19	54	25	2	73	27	31				
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員の相互理解がなされ、信頼関係に基いて業務が遂行されている。				50	63	15	1	43	45	11	1	88	12	57				
	学校問題意識	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設校校と協力し、必要かつ適切な学校作りを実施している。				56	58	14	1	20	53	23	4	73	27	31				
	会議の有効性	6	必ずかつ適切な会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。				26	68	30	5	12	43	43	2	55	45	10				
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。				16	55	55	3	35	41	22	2	76	24	43				
	授業等公開状況	8	授業などには授業や発表会を公開する機会があり、積極的な改善を行っている。				46	53	29	2	42	53	4	1	95	5	66				
	教員の資質向上	9	授業の向上のため、教員間で授業を公開し、教員会などで活発な交換を行っている。				54	69	5	1	23	50	44	12	18	39	34	9	57	43	11
	担任者のリポート状況	10	担任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されている。				23	50	44	12	44	63	21	1	34	49	16	1	83	17	50
2.ややあてはまる 3.おあてはまる 4.ちやうどあてはまらない	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。				44	63	21	1	33	59	34	3	26	46	26	2	71	29	33
	読書推進	12	図書館の活用促進を図るなど、読書推進に取り組んでいる。				55	65	8	1	43	50	6	1	93	7	64				
	学習指導要領の対応状況	13	教員等は学習指導要領に即して編成されており、各教員が柔軟に対応している。				65	58	6	0	50	45	5	0	95	5	71				
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。				47	61	20	1	36	47	16	1	84	16	52				
	人権教育	15	人権等に關する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める交換を行っている。				71	49	8	1	55	38	6	1	93	7	70				
	スポーツ・芸術文化	16	Sスポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。				64	43	2	0	65	33	2	0	98	2	81				
	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意識的に取り組んでいる。				72	53	4	0	56	41	3	0	97	3	75				
	国際理解・交流	18	国際の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。				50	65	12	2	39	50	9	2	89	11	58				
	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒支援を行っている。				55	57	16	1	43	44	12	1	87	13	58				
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。				75	48	6	0	58	37	5	0	95	5	74				
3.おあてはまる 4.ちやうどあてはまらない	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活性化を行っている。				34	64	31	0	26	50	24	0	76	24	39				
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活性化している。				66	56	7	0	51	43	5	0	95	5	70				
	いじめ防止対策	23	生徒の置かれた状況を把握し、いじめの早期発見、防止に努めている。				35	58	31	5	27	45	24	4	72	28	34				
	環境問題	24	生徒の置かれた状況を把握し、環境問題の早期発見、防止に努めている。				71	50	7	1	55	39	5	1	94	6	71				
	部活動	25	生徒が自ら主体的に活動するよう、積極的に部活動を推進している。				46	59	22	2	36	46	17	2	81	19	48				
	指導モラル指導	26	先生の利用に即する責任等、指導のモラル面の教育に十分に注意を払っている。				56	61	11	1	43	47	9	1	91	9	62				
	進路支援	27	生徒一人ひとりの興味・関心に基づいた進路選択ができるよう、必要に応じてスクールカウンセラーを動員している。				59	59	10	1	46	46	8	1	91	9	64				
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導している。				66	58	5	0	51	45	4	0	96	4	72				
	健康に関する指導	29	積極的な生活習慣をおくられるように指導している。				68	54	7	0	53	42	5	0	95	5	71				
	カウンセラー体制	30	生徒の生活や学習に関する必要不可欠な情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを動員している。				92	36	1	0	71	28	1	0	99	1	85				
4.ちやうどあてはまらない	危機管理への対応	31	防災訓練や避難訓練を実施し、学校の安全対策に努めている。				58	59	8	4	45	46	6	3	91	9	62				
	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持つ生徒の受け入れを行っている。																		
	指導活動に関すること	33	学校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。				91	37	1	0	71	29	1	0	99	1	84				

資料 3

勤務年数別比較

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない				全体		10年未満		20年未満		20年以上	
分類	評価項目	No	設問	加重		加重		加重		加重	
				2024	2025	2024	2025	2024	2025	2024	2025
学校運営に関すること	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	51	49	42	36	59	60	61	62
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	39	38	25	32	59	37	49	47
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	26	31	6	19	30	34	57	47
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	46	57	31	55	64	60	58	57
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	61	60	57	57	64	63	66	62
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	22	31	15	24	25	31	30	42
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	10	10	6	4	7	11	18	18
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	53	43	53	26	43	56	61	58
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	63	66	57	62	66	71	71	68
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されてある。	7	11	8	2	-11	15	18	22
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	42	50	37	42	38	52	54	61
	読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	24	33	13	23	30	32	37	50
教務、教科指導に関すること	学習指導要領の対応状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	62	64	51	57	68	66	75	74
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	72	71	67	68	71	71	79	75
	人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	53	52	47	43	39	48	74	68
	スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	67	70	54	66	79	73	80	75
シヨインベリ教育	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	79	81	71	82	84	76	87	84
	国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	79	75	75	78	86	69	80	74
生徒支援に関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒支援を行っている。	48	58	44	56	52	53	50	64
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	53	58	47	52	48	56	66	68
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	74	74	68	73	71	74	86	78
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	43	39	41	41	36	37	50	38
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	72	70	71	65	70	71	76	78
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化を取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	22	34	8	23	23	39	45	46
	部活動	25	生徒が心身共に成長できるよう、積極的に部活動を推進している。	60	71	48	68	66	68	76	78
	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分に取り組んでいる。	47	48	42	38	39	52	59	62
関連する支援に	進路支援	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	60	62	56	58	57	68	70	64
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	58	64	53	60	59	68	64	67
保健室に関すること	健康に関する指導	29	健康な生活習慣をおくられるように指導している。	67	72	63	70	68	69	74	76
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを動いている。	72	71	62	62	86	79	79	79
	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	80	85	74	83	86	85	87	87
関連する活動に	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	65	62	54	55	79	69	74	66
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	83	84	78	82	89	87	86	87
平均値				53.3	55.8	46.2	50.2	55.5	57.6	63.5	63.1

職域別比較

1:よくあてはまる 2:ややあてはまる 3:あまりあてはまらない 4:まったくあてはまらない

分類	評価項目	No.	説明	全体		専任教諭		特任教諭		事務職員	
				加重		加重		加重		加重	
				2024	2025	2024	2025	2024	2025	2024	2025
学校運営に関する こと	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	51	49	57	57	37	28	53	61
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	39	38	49	41	15	32	43	33
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	26	31	37	36	-4	18	35	36
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	46	57	59	64	28	45	30	53
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	61	60	62	59	56	51	68	78
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	22	31	19	28	13	27	45	53
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	10	10	8	11	4	-3	28	33
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	53	43	52	47	53	19	58	72
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	63	66	71	68	46	57	65	78
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されてある。	7	11	3	10	-1	-7	35	50
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	42	50	43	55	28	28	65	69
	読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	24	33	29	37	-1	15	45	53
教務、教科指導に 関すること	学習指導要領の対応状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	62	64	64	71	54	47	65	69
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	72	71	74	76	68	59	70	72
	人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	53	52	53	54	43	39	70	67
	スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	67	70	75	72	50	62	65	81
シ ョ ン ベ ー 教 育	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	79	81	83	80	66	80	83	89
	国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	79	75	81	74	69	73	88	83
生徒支援に 関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒支援を行っている。	48	58	44	57	38	51	78	75
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	53	58	49	59	47	47	78	75
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	74	74	74	74	66	68	88	89
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	43	39	37	33	46	42	60	58
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	72	70	73	74	72	64	68	69
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化を取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	22	34	24	36	16	31	25	31
	部活動	25	生徒が心身共に成長できるよう、積極的に部活動を推進している。	60	71	63	68	47	69	75	86
	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任感、情報のモラル面の教育に十分に取り組んでいる。	47	48	47	55	46	23	48	72
に 進 こ と 支 援	進路支援	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	60	62	60	61	59	57	65	75
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	58	64	60	66	50	51	63	81
保 健 室 に 関 す る こ と	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくられるように指導している。	67	72	69	71	65	72	65	75
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを動いている。	72	71	81	73	57	66	65	72
	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	80	85	85	88	69	78	83	86
に 募 集 と 関 す る 動 作	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	65	62	74	67	44	43	68	78
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	83	84	86	86	79	78	75	89
平均値				53.3	55.8	55.9	57.8	43.1	45.8	60.8	67.9

資料 4

加重ポイントの前年比較

評価指標

A	ほぼ達成	加重ポイント 65以上
B	概ね良好	加重ポイント 40以上
C	改善の余地あり	加重ポイント 25以上
D	不十分	加重ポイント 25未満

改善度(前年度評価Aを除く)

A	10以上の上昇
B	5以上の上昇
C	5未満の上昇
D	下降

分類	評価の観点	No	評価項目	加重ポイント			評 価		
				前年度	2025年度	増減	前年度	2025年度	改善度
学校運営に関すること	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	51.2	49.2	-1.9	B	B	D
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	39.1	37.6	-1.6	C	C	D
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	26.0	31.0	5.0	C	C	B
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	46.1	56.6	10.5	B	B	A
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	61.2	59.7	-1.6	B	B	D
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	21.7	31.0	9.3	D	C	B
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	10.1	10.1	0.0	D	D	C
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	53.1	42.6	-10.5	B	B	D
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	63.2	65.9	2.7	B	A	C
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されている。	7.0	10.9	3.9	D	D	C
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	42.2	49.6	7.4	B	B	B
	読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	23.6	32.9	9.3	D	C	B
教務、教科指導に関すること	学習指導要領の対応状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	61.6	64.0	2.3	B	B	C
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	71.7	70.5	-1.2	A	A	---
	人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	53.1	51.6	-1.6	B	B	D
	スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	67.1	70.2	3.1	A	A	---
グローバル教育	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	78.7	81.0	2.3	A	A	---
	国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	78.7	74.8	-3.9	A	A	---
生徒支援に関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒支援を行っている。	47.7	57.8	10.1	B	B	A
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	52.7	57.8	5.0	B	B	B
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	74.0	74.4	0.4	A	A	---
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	42.6	39.1	-3.5	B	C	D
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	72.1	70.2	-1.9	A	A	---
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化を取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	22.1	33.7	11.6	D	C	A
	部活動	25	生徒が心身共に成長できるよう、積極的に部活動を推進している。	60.5	70.9	10.5	B	A	A
	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分にに取り組んでいる。	46.5	48.4	1.9	B	B	C
進路支援に関すること	進路支援	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	60.5	62.0	1.6	B	B	C
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	57.8	64.0	6.2	B	B	B
保健室に関すること	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくられるように指導している。	67.4	71.7	4.3	A	A	---
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを動いている。	72.1	70.9	-1.2	A	A	---
	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	80.2	84.9	4.7	A	A	---
募集・入試に関する活動	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	65.1	61.6	-3.5	A	B	---
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	82.6	84.5	1.9	A	A	---
平均				53.9	55.8	1.8			

プラス評価の前年比較

評価指標

A	ほぼ達成	プラス評価 80%以上
B	概ね良好	プラス評価 60%以上
C	改善の余地あり	プラス評価 40%以上
D	不十分	プラス評価 40%未満

改善度(前年度評価Aを除く)

A	5%以上の上昇
B	0~5%の上昇
C	-5~0%の下降
D	-5%以下

分類	評価の観点	No	評価項目	プラス評価の割合(%)			評 価		
				前年度	2025年度	増減	前年度	2025年度	改善度
学校運営に関すること	建学の精神・愛校心	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者によく浸透し、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	87.6	83.7	-3.9	A	A	--
	中学校・高校の経営	2	中学校・高校の予算、決算の仕組みや財務状況を意識した学校運営をしている。	79.1	73.6	-5.4	B	B	D
	学園の各組織	3	評議員会、理事会など、学園の各組織の役割や機能について理解している。	69.0	72.9	3.9	B	B	B
	教職員の連携	4	事務職を含む教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて業務が遂行されている。	81.4	87.6	6.2	A	A	--
	学校間連携	5	学園のスケールメリットを生かし、他の設置校と協力し、魅力ある学校作りを実施している。	89.9	88.4	-1.6	A	A	--
	会議の有効性	6	必要かつ適切に会議が設定され、有効で効率的な議論が行われている。	67.4	72.9	5.4	B	B	A
	地域交流	7	地域の自治体や住民との交流ができています。	57.4	55.0	-2.3	C	C	C
	授業等公開状況	8	保護者などに授業や発表会を公開する機会があり、積極的に広報されている。	85.3	76.0	-9.3	A	B	--
	教員の資質向上	9	授業力向上のため、教員間で授業を公開し、教科会などで意見交換を行っている。	93.0	95.3	2.3	A	A	--
	初任者のサポート状況	10	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制が整備されている。	53.5	56.6	3.1	C	C	B
	校内外の研修	11	校内外において、各教員が計画的、積極的に研修に参加し、教員間で情報を共有している。	78.3	82.9	4.7	B	A	B
	読書推進	12	図書館の利用促進を図るなど、読書指導に取り組んでいる。	65.9	71.3	5.4	B	B	A
教務、教科指導に関すること	学習指導要領の対応状況	13	教育課程は学習指導要領に沿って編成されており、各教科のシラバスに反映している。	92.2	93.0	0.8	A	A	--
	学習指導	14	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。	96.9	95.3	-1.6	A	A	--
	人権教育	15	人権尊重に関する課題や指導方法を研究し、生徒の意識を高める教育を行っている。	87.6	83.7	-3.9	A	A	--
	スポーツ・芸術文化	16	スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。	92.2	93.0	0.8	A	A	--
シノボール教育	新しい教育への取り組み	17	ICT教育、アクティブ・ラーニング、キャリア教育など、新しい教育に学校全体で意欲的に取り組んでいる。	96.9	98.4	1.6	A	A	--
	国際理解・交流	18	他国の歴史・文化を理解し、積極的に海外の人々や学校と交流をしている。	97.7	96.9	-0.8	A	A	--
生徒支援に関すること	指導方針の一貫性	19	教員間や生徒の家庭とも連携し、統一した生徒支援を行っている。	82.2	89.1	7.0	A	A	--
	生徒会活動	20	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	84.5	86.8	2.3	A	A	--
	学校行事	21	体育祭、文化祭などの学校行事を活発に行っている。	93.8	95.3	1.6	A	A	--
	ボランティア	22	地域の自治体や住民と連携し、ボランティア活動を活発に行っている。	77.5	76.0	-1.6	B	B	C
	いじめ防止対策	23	生徒の細かな変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、防止に努めている。	98.4	94.6	-3.9	A	A	--
	環境問題	24	生徒に清掃、校内美化に取り組ませることによって、環境問題にも関心を持たせている。	64.3	72.1	7.8	B	B	A
	部活動	25	生徒が心身共に成長するよう、積極的に部活動を推進している。	88.4	93.8	5.4	A	A	--
	情報モラル指導	26	SNSの利用に伴う責任等、情報のモラル面の教育に十分にに取り組んでいる。	84.5	81.4	-3.1	A	A	--
進路支援に関すること	進路支援	27	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制を整備している。	90.7	90.7	0.0	A	A	--
	内部進学	28	学園内大学と連携し、多くの生徒が学園内大学に進学できるよう指導に取り組んでいる。	87.6	91.5	3.9	A	A	--
保健室に関すること	健康に関する指導	29	健康的な生活習慣をおくするように指導している。	94.6	96.1	1.6	A	A	--
	カウンセリング体制	30	不登校生徒や特別な配慮が必要な生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてスクールカウンセラーを勧めている。	96.9	94.6	-2.3	A	A	--
	危機管理への対応	31	防災訓練やAED講習会を実施し、学校の安全対策に努めている。	97.7	99.2	1.6	A	A	--
募集活動に関すること	入試業務	32	受験生の安定確保を維持し、各コースに応じた学力を持った生徒を獲得している。	91.5	90.7	-0.8	A	A	--
	情報公開	33	学校ホームページなどを通して、本校の魅力や入試に関する情報を積極的に公開している。	96.9	99.2	2.3	A	A	--
平 均				84.1	85.7	0.8			